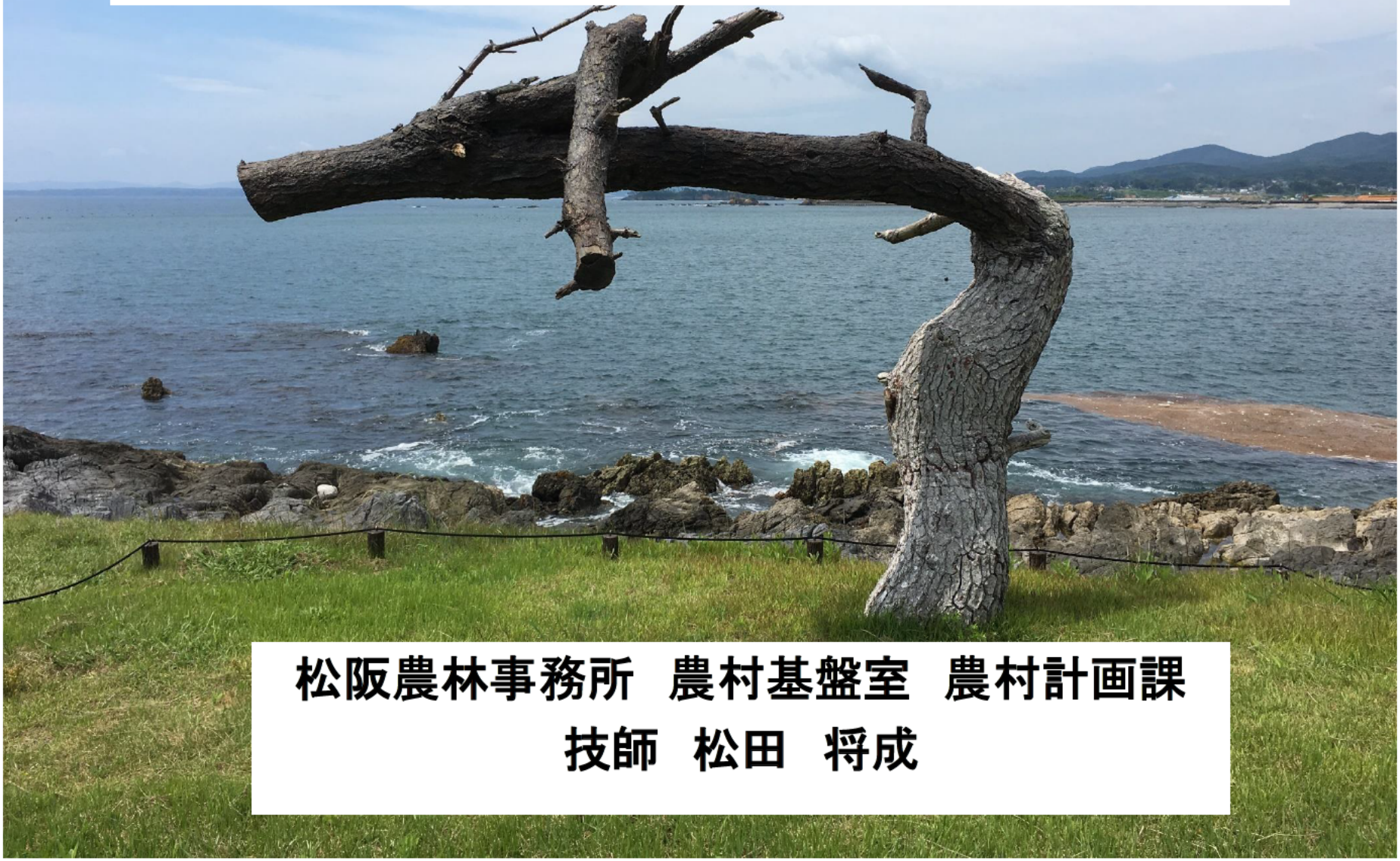
資料３

宮城県への派遣業務報告について

派遣期間　：　平成29年4月1日～平成31年3月31日



松阪農林事務所　農村基盤室　農村計画課
技師　松田　将成

目次（発表内容）

1．　派遣先について

2．　南三陸町志津川漁港について

3．　津波対策の考え方について

4．　地盤隆起問題について

5．　派遣業務を通しての気づき

派遣先について

気仙沼地方振興事務所 水産漁港部 漁港漁場第二班

〇班構成

- 宮城県職員５名
- 任期付き職員２名（コンサル退職者の方）
- 派遣職員２名（松田、愛知県派遣１名）

〇主な業務内容

防潮堤工事に関する地元調整および発注・監督

仮設庁舎職場状況

新庁舎職場状況

仮設庁舎

新庁舎（H29.10月より）

南三陸町志津川漁港について

津波対策の考え方について

【L1津波】
「発生頻度の高い津波」
（数十年～百数十年）

● 人命・財産や経済活動、
国土を守ることを目標

→

海岸堤防の整備
L1津波に対応した防潮堤により背後地への浸水を防ぐ
志津川湾　TP＋8.7m

【L2津波】
「最大クラスの津波」
（1000年に1度）
東日本大震災クラス

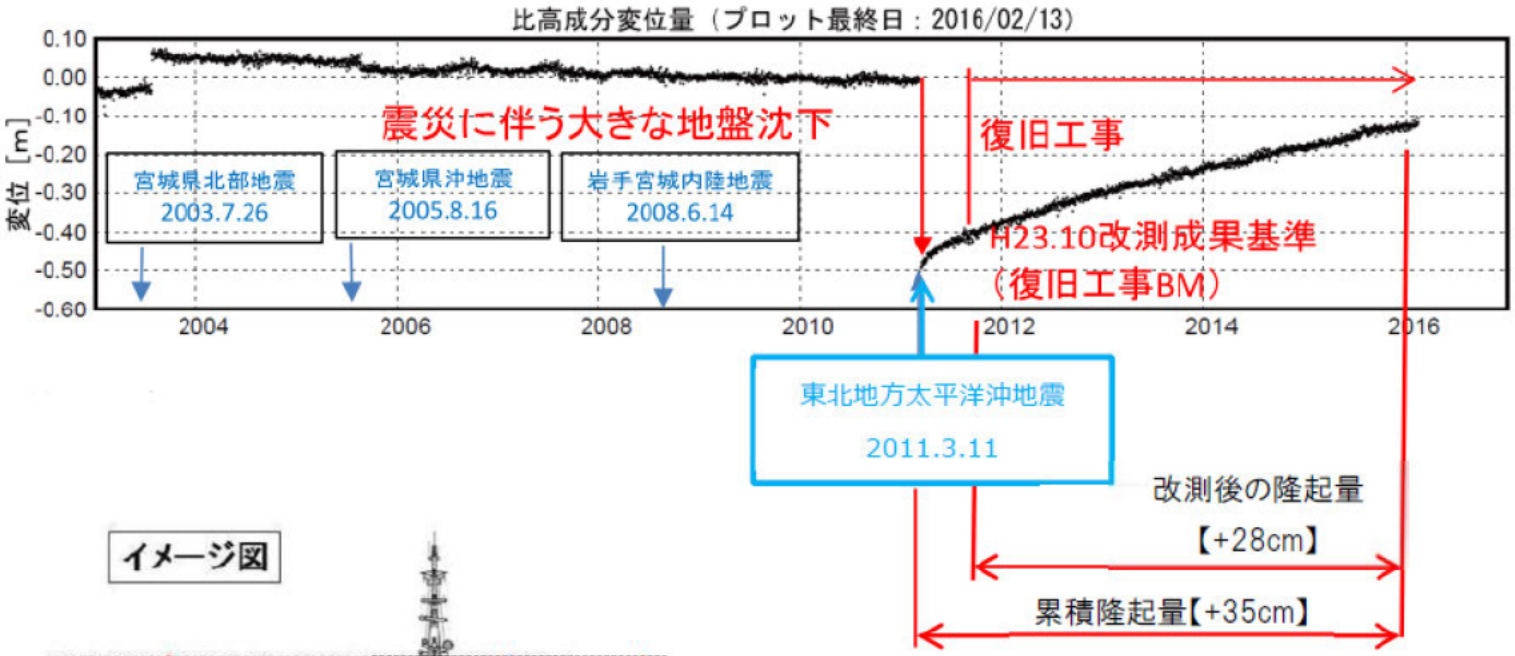
●住民の生命を守ることを最優先

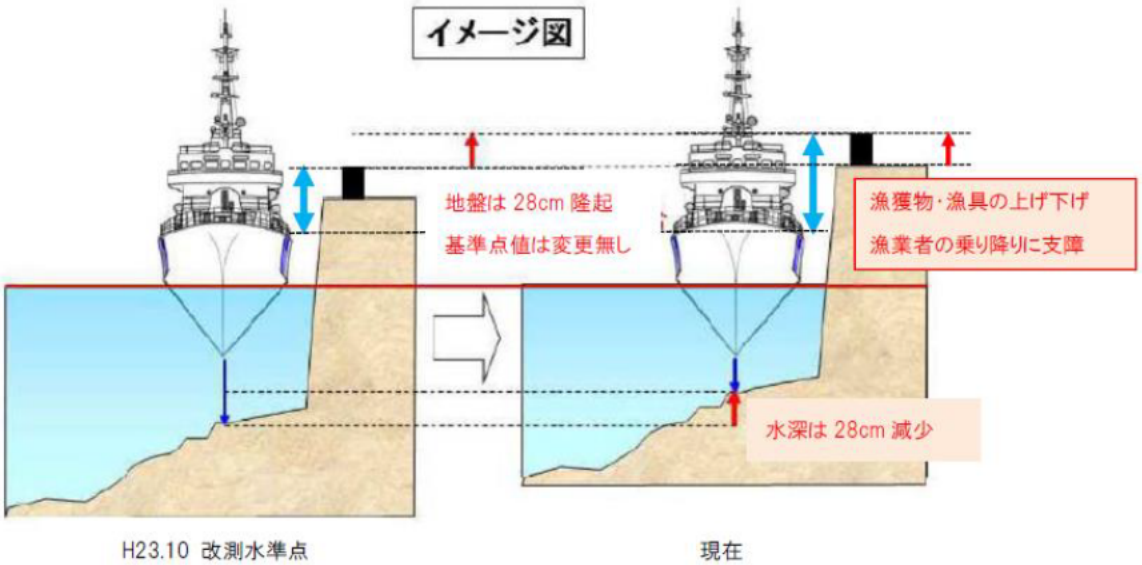
→

ソフト面での対応
居住地を高台へ移転
浸水区域は居住不可
必要堤防高 TP+20m以上

津波対策の考え方について

地盤隆起問題について





地盤隆起のイメージ

海上保安庁 HP 資料を加工

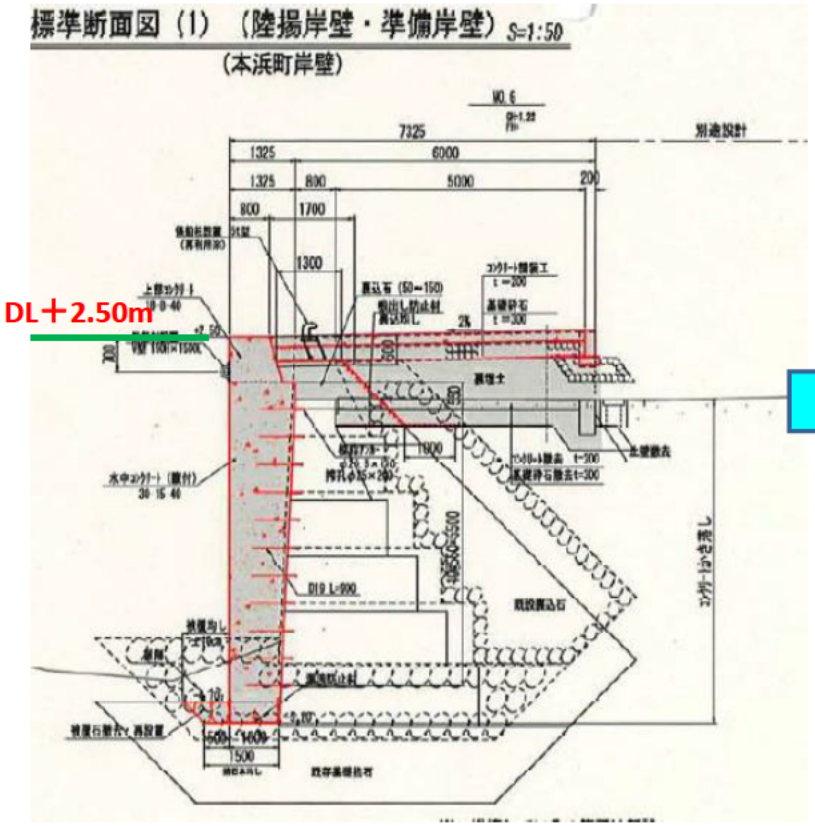
沿岸の観測局の変動量の一覧

観測日	高さの変動量（cm）	
	【沈下量】	【5年間の隆起量】
	2011.3.12	11.3～16.3
所在地	本震前後の変動量	本震翌日～5年後の累積
気仙沼市笹が陣	-65	+25
南三陸町志津川	-68	+35
女川町女川浜	-89	+41
石巻市寄磯浜（牡鹿）	-107	+44
東松島市矢本	-50	+36
利府町利府	-29	+20
亘理町	-22	+19

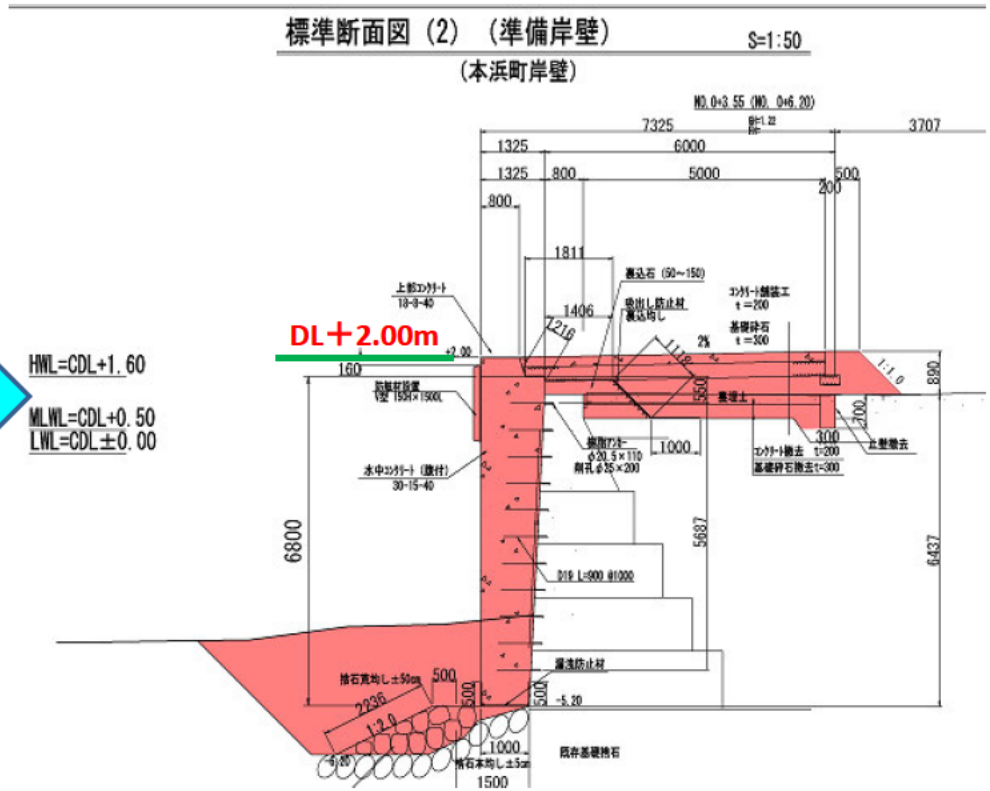
※国土地理院のGPSによる観測（長崎県福江観測局を固定とした場合

地盤隆起問題について

査定時断面（原形復旧）



変更断面



岸壁天端高の嵩下げ　DL+2.50m → DL＋2.00m

水産庁と協議のうえ地元利用を考慮し、50㎝の嵩下げを行った。

業務を通しての気付き

・復興時期に合わせた人材配置

初動は技術系職員、その後は用地取得業務に経験のある職員が重要となる。震災後７年を経過した宮城県でも用地担当職員を増員している。

・漁港復旧計画が重要

地盤隆起など不測の事態も発生するため、詳細な漁港復旧計画が必要。

・施設台帳などの細やかな更新

復旧業務を進めるにあたり、被災前の施設を知ることが必要となる。被災前を知らない派遣職員にとって写真がありがたい。

・漁業活動への意欲低下を防ぐ

防潮堤工事は景観だけでなく、周囲の状況を一変させてしまう。漁港へのアクセスが課題となる。

漁業活動への意欲低下を避けるため、課題に対しては迅速に丁寧に対応する。

ご清聴ありがとうございました。